

もみじ



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟
〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17
電話・FAX (082) 296-5597
E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp
URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>
郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 県高校総体 (6/4・5 広島学院・絵下山) 報告
2. 山岳レスキュー研修会(無積雪期) (6/18~19 ひろしま県民の森) 報告
3. クライミングスクール (6/5 三倉岳) 報告
4. 登山教室 (6/25~26 甲ヶ山・烏ヶ山) 報告
5. ありんこチーム活動 (6/4 歓喜山・平家山・烏帽子形山) 報告
6. 岳連短信 (寄贈御礼、7~8 月の行事予定)

1. 県高校総体報告

(県高体連登山部事務局 内藤 弘泰)

令和 4 年度 第 75 回広島県高等学校総合体育大会
(登山) の結果を報告します。

<日程要項>

令和 4 年 6 月 4 日 (土) ~ 5 日 (日)

広島市 広島学院高校、安芸郡坂町 絵下山一帯

選手参加 12 校、152 名

<大会結果>

順位 校名 合計点

<男子一部>

- | | |
|-------------|------------|
| 1 広島学院 99.4 | 2 修道 98.5 |
| 3 基町 80.4 | 4 安古市 73.9 |
| 5 廿日市 72.2 | 6 五日市 68.2 |

<男子二部>

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 修道 B1 98.8 | 2 広島学院 B1 98.3 |
| 3 広島学院 B3 97.5 | |

<女子一部>

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1 ノートルダム清心 97.7 | 2 基町 81.8 |
| 3 五日市 62.2 | |

<女子二部>

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1 ノートルダム清心 E 91.3 | 2 五日市 E 76.1 |
|-------------------|--------------|

上位大会のインターハイへは (一部) 優勝の

男子 広島学院 女子 ノートルダム清心 が出場。

<概要>

コロナ感染症対策のため、今年度も宿泊なしの日帰り大会となりました。1 日目は広島学院高校の講堂でペーパーテスト。2 日目は坂町の絵下山への登山行動を審査することになりました。

コースを確定させるまで、紆余曲折、七転八倒があり、しかもあいにくの雨に降られましたが、スタッフの先生方や選手の皆さんの頑張りのおかげで、無事に大会を終えることができました。

今年も広島学院と修道は、僅差の熱い戦いとなりました。男子は広島学院、女子はノートルダム清心が優勝。両校のインターハイでの活躍を期待したいと思います。



2 日目特区间ゴール(明神山)での選手たちの様子



コース中の読図ポイントをチェックする選手たち

2. 山岳レスキュー研修会(無積雪期) 報告

(指導部長 森本 覚)

6/18(土)～19(日)

登山形態：研修会

会場：ひろしま県民の森

人数：26 名 (スタッフ含)

令和 2 年 2 月に実施した積雪期の山岳レスキュー研修会以来 2 年半ぶりの開催となりました。コロナ禍で我々指導部スタッフも十分な研修を受講できておらず、今回は中央の伝達講習の方式ではなくスタッフも参加者の皆さんと一緒に課題を検証してみる方式の研修としました。救急処置や搬送訓練を体験する事で、もう一度「安全登山」というものを再認識して頂けたらと思っています。(森本)

【感想文】

『山岳レスキュー(無雪期)研修会に参加して』

(日本山岳会広島支部 田中 明良)

今回の研修会は登山中(ハイキング)に起こりうるトラブルの対処という内容で行われた。

まず初めに倒れている人の接触方法について説明を受けた。山に限らず街中でも、誰かが突然、倒れたり、倒れているところを発見したら一刻も早く手当をしなければいけないと焦って近寄ってしまうが、近寄る前に周囲の安全確認・目視による全身の確認が必要で、近寄る際も大声を出すと相手を驚かすので、小声

で呼びかけながら反応の確認。また肩や身体に触れる際にも相手が急に動く事を注意しながら対応していく必要があると指摘を受けた。

応急処置の方法では、3 人 1 組(1 名は負傷役)となり、出された課題をパーティー内でどう対処していくか、自分達で考えて処置するスタイルで実施された。腕の骨折の想定では、サムスプリントを持参していたので、これを使用して腕を固定した。固定後はサムスプリントが外れない様にテーピングを貼り、三角巾を使用して腕を吊るした。その後、実際に歩いて固定はしっかりできているか？腕を固定されていて視界はどんな感じかなどを実際に体験した。その後、各グループで処置の方法を発表して良い点、改良すべき点をスタッフの方にアドバイスをいただいた。サムスプリントは負傷した腕に固定する前に正常な腕の方で型をとってから負傷した腕に装着してあげると、負傷者にとって痛みの負担が少ない手当になるとスタッフの方に教わった。購入した当初は使い方を覚えていたが、時間が経ってすっかり適切な使用方法を忘れていた。道具も持っているだけでは意味がなく適切に使用できないといけなと感じた。他グループの発表で私が一番面白いアイデアと感じた処置方法はペットボトルをナイフで縦に半分にカットして副木代わりにしていたことである。また、カットしたペットボトルの角で皮膚を傷つけない様にテーピングやタオルでしっかり保護するという細やかな所まで気配り出来ていて驚いた。また、三角巾が無い場合の固定は、テーピング、手ぬぐい、バンダナ、タオルなど色々もので代用することができとても参考になった。日頃の山行で持って行く道具で何ができるか、そして汎用性の高いものを選定していく事、その道具で何ができるかを常日頃から考えておく必要があると感じた。

背負い搬送では、6 人 1 組(1 名は負傷者)となり、歩けない負傷者を担いで下山するという想定でおこなわれた。また、下山の際、担ぎ手を交代しやすい様に迅速性の高い工夫も必要であった。私たちのグループはザックの荷物を空にして、ストックが 3 本あったので長さを最小限にして束ねて、それを銀マットで巻きテーピングでとめ、リュックの両ショルダーの最下

部にストックを入れてその上に負傷者を乗せるという方法で行う事にした。これだけでも負傷者を運べない事はないのだが、安定性がイマイチだったので雨具の上着を使用して負傷者のお尻から背中までを覆う様にして安定性を高めてみた。担ぎ手・負傷者共にとても楽になったのだが、担ぎ手の交代がイマイチで、覆っている雨具をどう固定したら迅速かつ簡単に交代できるかを改良している間に時間切れになってしまった。他のグループも我々と同様に処置していたのだが、脱着しやすいようにスリングを使用して迅速性の高いシステムになっていた。また、スリングが足りない場合は代用品としてテーピングを『くるくる』とこよってスリング代わりにしていた。こよると強度が上がるそうでとても参考になった。スタッフの方々にも事前に考えたザック搬送のシステムを披露していただいた。基本は私たちのやり方と同じで、負傷者を覆うのを雨具ではなく、もう1つ空のザックを使用して負傷者をザックとザックで挟み包みこむ様に対処していた。ザックなら丈夫なので大柄な負傷者も覆うことができるので良いと思った。

搬送講習では実際に山に入り傾斜面で各グループが考案した背負い搬送でロープを使用してロアーダウンする訓練をした。リーダー、負傷者、担ぎ手、補助者、ビレイヤーの役割を交代して行った。ビレイヤーがしっかりした支点からムンターヒッチで降ろしていく。担ぎ手は足元が見えにくいので補助者が足場を支持する。リーダーはビレイヤーに次の支点の指示やルート取りなど、どの役割も大変だった。

今回、研修会に参加して、レスキュー方法など、教わりながら進行していくものと思っていたが、自分達で考えて対処していくスタイルで実践的でとても充実した内容だった。また、負傷者に対して『痛くないですか?』、『動かします』などの声掛けや、レスキュー時の痛み、負担をなるべく減らす気遣いをして、負傷者の気持ちになって対処する事で負傷者が安心できる救助ができるように日頃から備えておきたい。あってはならない事だが今後、所属している会などで、実際に事故が発生した際は遭難者の搜索、救助を岳連に協力を依頼する可能性もあると思う。迅速かつ確

実・安全に山岳地帯での搬送、救助を行う為に、ワークレスキュー・セルフレスキュー方法を岳連に所属している会員皆でシステムの共有・構築の訓練をしておく事が大事であると実感した。

『令和4年度山岳レスキュー研修会を終えて』

(福山山岳会 米原 啓太)

2日間にわたり開催された山岳レスキュー研修会。たくさんの気づきを頂けた充実した2日間となりましたので報告いたします。

1日目は主に「応急処置」について。

3人1組のパーティーに分かれ、うち1人が「要救護者」となり出血や骨折など様々な状況をお題としていただき各パーティーで持っているものを使って手当てするという形式で行われました。

「先にやり方を教えてもらってから実践する。」という受け身な研修の流れを想像していたので、かなり焦って手間取ってしまいました。

それぞれ持っている装備もわからない山のできる手当てでは限定されていて「清潔で完璧な処置」はかなり難しく、持っているものとできることで何とかする「場当たり的な処置」しかできないことを痛感しました。

その後講師の方からの優先すべきことの解説や、ほかのパーティーの処置方法の発表を見ると、「なるほど」と思う方法やアイデアを共有させてもらうことができ、情報量の多い充実した内容となりました。

また、これは持っておいたら使える、と思えるモノや、いつも自分が持ち歩いているものでももう少し量を多めに持っていた方がいいな、と思うものなど装備品の見直しもすることができました。

2日目の「背負いでの搬送」では6人1組のパーティーに分かれ、前日と同じように1人が「要救護者」になり何とか「担いで下山」という想定で行われました。

ザックやトレッキングポール、スリングやカラビナ、レインウェアなどを駆使して担ぐ方も要救護者もできるだけ楽に担げる方法をとところどころ講師の

方からヒントをもらいながら考えていきましたが、実際に自分が担がれてみると締め付けられたり押し付けられて痛い部分があり長時間担がれているのは大きな負担がかかることを体感し、タオルやマットを挟む等、配慮の必要性を感じました。

その後、実際に斜面でロープをつかって要救護者を担いでの下降を実践。

「担ぐ人」「下降経路を指示する人」「立ち木で確保する人」「担ぐ人を誘導する人」に役割分担して下降を始めましたが、リーダーが明確でないため、指示や意見が錯綜し、目的の位置まで下降するのにずいぶん時間がかかってしまいました。

せっかく人手はあるのにそれを生かせない状況を体験して、緊迫した状況でのリーダーシップについて考えさせられました。

続いての「担架搬送」でもパーティーのメンバー全員でかわるがわるケガ人役になり搬送を行いました。が、運ばれる側になってみると状況説明や声をかけてもらえる安心感を感じ、声掛けや励ましの大切さを実感。

2日間いろいろな状況を想定して行われた研修でしたが、緊急時の自分の無力さ、無知さに情けない気持ちになりました。が、それも当然！とおもうことにしました。事故に慣れている人なんてそんなにいませんよね 笑

だからこそこういった研修に定期的に参加し、考え、話し合い、共有することで、いざというときに備える意義を強く感じた2日間でした。

雨が降ったり暑かったりの2日間でしたが、講師の方々、ご一緒した参加者の皆様には大変お世話になり、感謝申し上げます。

ありがとうございました！

(以下の写真提供 久保田 征治)





3. クライミングスクール報告

(指導部長 森本 寛)

第3回 6/5(日)

山城：三倉岳 見晴らし岩スラブ

人数：20名(スタッフ含)

Bコース8合目を予定してきましたが午後雨予報の為、近くの見晴らし岩スラブに場所を変更しました。早春賦など7ヶ所でトップロープ、難しいところはエイド、又は割愛してのクライミングになりましたが、11時30分頃それぞれ4~5本登ったところで降雨となり、下山、炊事棟でエイドの復習、トップロープ支点構築などを行いました。

(指導部 塩田 徹)

【感想文】

『令和4年度第3回クライミングスクール(6月)に参加して』(受講生 高田 正剛)

6月の講習は、八合目の「ひとけたエリア」でフリークライミングの練習をする予定でしたが、昼前から雨が降るという予報が出ていたため、場所を見晴らし岩に変更し、「マルチピッチクライミングの

途中で雨が降り始めたため、できるだけ早く登らなければならなくなった。」という想定のもとに、フリークライミングで登れない箇所はカラビナとスリングを使ったエイドクライミングで登る、という内容に変更されました。

2本目、「早春賦」の左側ルート。(練習をした5本のルートのうち、3本のルートについて書いています。)最初の大きなクラックに身体を入れて登る要領がなかなかつかめませんでしたが、終了点に到達することができました。このルートは私でもフリークライミングで登ることができそうだと思いますが、「できるだけ早く登る」と言い訳をして、1箇所をエイドクライミングで登りました。

3本目、「写楽」。120cmスリングの途中でオーバーハンドノットで結び目を作って2段のあぶみのように使い、後半の岩がかぶっている箇所を登ろうとしたのですが、1段目に足を乗せた状態では上の輪が締まって2段目に足を乗せることができず、宙吊り状態のままどうすることもできなくなってしまいました。

スタッフの方のアドバイスで60cmスリングを追加し、それを足場にして立ち上がり、何とか大きなホールドを掴むことができましたが、その時点で腕に全く力が入らなくなっており、それ以上登ることができませんでした。

5本目、なごり雪。岩がかぶっておらず、他のルートと比べると多くのボルトが打たれているため、エイドクライミングであれば何とかなるかもしれないと思って登り始めましたが、雨で足場が滑って危険であるため、終了点に到達する前に下りることになりました。

午後からは麓にあるキャンプ場の炊事棟に移動し、主に支点構築の方法について講習を受けました。支点構築については、昨年度と比べると新しい内容が盛り込まれるなどしており、より充実したものになっていると思いました。また、スリングをあぶみのように使用方法についても詳しい説明があり、プレートの無いあぶみがあのような形になっている理由を理解することができました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による講習の中断があったため、私は、昨年度に引き続き、今年度もクライミングスクールを受講しています。

今年度の受講も3回目が終了し、少しは上達していなければならないのですが、今の私は、前年度に登ることができた箇所も登ることができなくなっています。

残り5回の受講で少しでも上達するように努力してまいりますので、スタッフ及び受講生の皆様、よろしく願いいたします。

『雨の中のクライミングスクール』

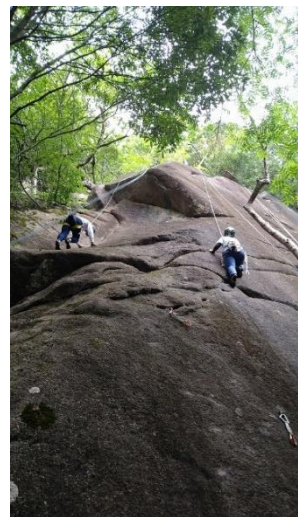
(受講生 田中 裕紀子)

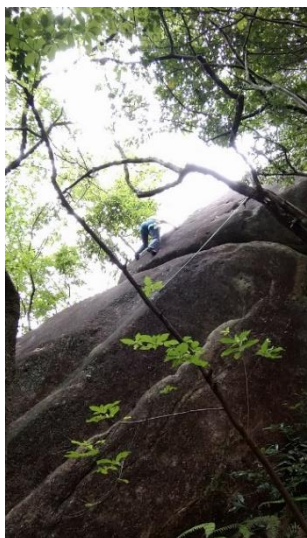
早くも3回目を迎えたクライミングスクールですが、今回はあいにくのお天気。ただし、雨が降るのが午後からとの予報だったので、本来予定していたBコース8合目あたりではなく、Aコースの見晴らし岩スラブに変更となりました。今回のテーマは、マルチピッチの際にどうしても自分の力では登りきれないという場合に、人工的な手段で登るエイドクライミングを習得することです。AO（エーゼロ）と言われるクイックドローを掴んだり、スリングを手で握ったり、足がかりにして登る方法を教えてもらい、3回自力で登れない場合はエイドをするというルールのもと、まずは「ヤギ返し」に挑戦しました。こちらはエイドを使用せずとも登れたのですが、ここで予想外に雨が結構降り始めてしまい、岩がどんどん濡れていきます。続いた「タッチミー」と「コールドゲーム」は少々難しく、岩が濡れて滑りやすくなっていると思われたので、無理をせずにエイドを経験する事に重点を置き、スリングを使用して足がかりを作ったり、手で掴んで登ったりということをしてみましたが、通常だと登れないであろう箇所をサクサクとクリアすることが出来ました。ただし、エイドを作って登った際に体を安定させてそのエイドを自分で回収しなければならないので、その点で多少難しさを感じる部分がありましたが、マルチピッチで登れなかった場合はどうするのら

うか、という疑問がこれで解決されました。しかしなるべくエイドに頼らないようにしたい気持ちもあるので、そのためにもクライミング技術をもっとあげていきたいと思いました。

午後からは本降りとなってしまったので、炊事棟でロープワークの講習でした。まずはスリングでアブミを作って登ってみるという事をしました。体を安定させるためにバランスを取るのが結構大変でしたが、このような方法を使う場面もあるということが分かり勉強になりました。その後は支点構築ボードを使用しての3パターンの支点作成の練習をし、2回目の時に習った「松下さん」の上部で行った木に支点を作ってから懸垂下降の一連の流れの復習もしました。登る技術を磨く事ももちろん大切ですが、このようなロープワーク技術もクライミングをするにあたってとても重要なので、色々と教わる事ができ、雨が降って残念ではありましたが大変有意義な時間を過ごすことができました。

(写真提供 塩田)





4. 登山教室報告

(指導部長 森本 寛)

第3回 6/25(土)～26(日)

登山形態：ベース型テント泊山行

山城：甲ヶ山・烏ヶ山

人数：9名 (スタッフ含)

前回に続いて岩稜帯の歩行練習を行いました。1日目は午後から雷雨の予報が出ていましたので矢筈ヶ山へ向かう予定を変更し甲ヶ山の往復としました。下山時に急斜面ではラッペル練習を行いました。2日目は予定通りの行動ができました。(森本)

【感想文】

『2022年6月25日(土)甲ヶ山、26日(日)烏ヶ山
岩稜歩き訓練』 (登山教室2年生 松井 邦幸)

【6月20日(月) 番外編】

6月18日～19日に開催されたレスキュー研修会で小家石 SP にお会いした際、東広島呉道路が夜間通行止かもしれないので確認するようアドバイスをしていただいていた。

帰宅後、確認してみたところ、なんと、東広島呉道路の他に、松江道と山陰道も夜間通行止め箇所があるではありませんか。急いで計画担当の方へ報告し、行程の変更をしていただきました。金曜日の夜或いは土曜日早朝出発の長距離移動の場合、高速道の交通規制確認は必須ですね。

【6月25日(土) 甲ヶ山】

当日は天気が崩れる予報でしたが、休憩で県営大山駐車場に停車した時点(6時30分頃)では、珍しく大山の頂上まで雲一つなく、本当にこれから天気が崩れるのだろうかと思いたくなる程穏やかな天候でした。

休憩を終えて、最初の目的地である甲ヶ山を目指して再出発しました。

大山駐車場から香取登山口までは約20分でしたが、爽やかな高原を駆け抜けて、時たま日本海も眺望出来るコースで、もう少しこのままドライブしてみたい気分になりました。

香取登山口到着後、車道の脇に車3台駐車できるスペースがあり、ここへ駐車後、7時30分、登山を開始しました。なだらかな登山道を、木々の青葉を眺めながら心地よく歩いて行き、8時30分頃、^{きのえかわ}甲川にたどり着きました。甲川を渡渉すると、急登のザレ場に風景ガラッと変わります。

ここから約200m登った地点で、ヘルメット、ハーネス、カラビナを装着し、補助ロープを使って安全確保をしながら登攀する手法をスタッフから指導していただきました。

訓練中、地元の登山ガイドの方が我々を追い越して行かれました。彼は「今日は天候が崩れるので甲ヶ山で引き返した方が良い。」と言われていました。

森本 CL も当初からそのように考えられていたとのことで、「地元の方が言うので間違いないねー。」と仰られていました。

私にとっては、このルート変更は幸運だったのかもしれない。と言うのも、6月初旬に痛風発作を起こして全くトレーニングができないまま、この教室に参加したからです。

補助ロープを使った訓練後も甲ヶ山の稜線まで急登が続き、私は完全に息が上がってしまいました。

黙々と登っていたのですが、私の後ろを歩かれていた小家石 SP から、「シャツの袖を捲りんさい。」とのお声が掛かりました。傍から見ていてもバテているのが分かったそうです。

もうへろへろでした。最近の体力低下は驚くほどで、体調管理の大切さを痛感しています。

稜線に出てから一息つきましたが、甲ヶ山山頂までは岩稜が続きます。いわゆるゴジラの背と言われるコースです。落ちたら死んでしまう個所もあり気は抜けませんが、北に日本海、南西に大山と最高の景色を眺望出来ました。

この景色を見たら、疲れが吹っ飛びましたと言いたいところですが、実際のところはちょっとだけ元気になった感じでした。

この時点で風が強くなってきましたが、雨が降らなかったもので、岩場が滑ることもなく、安全に行動でき、甲ヶ山山頂で記念写真を撮った後、元来た道を戻って下山を開始しました。

当初は、甲ヶ山から矢筈ヶ山、大休峠を経由して香取登山口に戻る計画でしたが、落雷の危険があったため、甲ヶ山から元来たルートを引き返すことになったのでした。

甲ヶ山の稜線を外れ甲川方面に降る急坂では、懸垂下降の訓練をしていただきました。

偶々ですが、私は受講生の中でしんがりになり、最後尾に森本 CL が居られたので、森本 CL から色々とアドバイスを受けながら下降訓練を行いました。森本 CL が「懸垂下降をするときは迅速確実な動作が必要。」と助言された言葉が印象に残りました。懸垂下降をするようなシチュエーションでは、緊急脱出の場面も想定されるからです。

余談ですが、私は若いころ 4 年間消防職に就いていました。

訓練中、よく先輩から、「迅速確実に行動しろ！要救助者が死んでしまうぞ。お前も死ぬぞ。」と叱咤激励されたことを思い出しました。

転職後は、ロープワークとは無縁の生活をしていましたが、2011 年 3 月に発生した東北大震災の惨状を目の当たりにし、このような災害時に、自分も何かしたいと考え、消防団に入団しました。(今は転居の為退団しています。)

こういった経緯もあり、救助・ロープワーク関係には特に関心があるのですが、登山教室で教えていただくロープワークは、山や受講生の状況等に対応した、フレキシブルで実戦的な、とても充実した内容だと感

じています。

いざと言うときに迅速確実な対応ができるよう技術をしっかり身に着けたいと思います。

話を登山報告に戻したいと思います。

私は「迅速確実」を意識しながら懸垂下降とロープ撤収作業に取り組んでみました。

段取りは概ね次のとおりです。

私が先に下降し、次に森本 CL が下降したら、私がロープ端末を解索し、ロープを素早く引いて回収します。回収後のロープを森本 CL が畳み、私が畳みやすくするためにロープを解き直します。畳んだロープは今から下降しようとする前のメンバーに渡して常に先行者へロープが届く様にしました。

これを 5~6 回繰り返すと、段々コツを得て、作業が早くできるようになり楽しくなってきました。もっとロープワークを続けたいと思いました。

その後、駐車地点に 17 時 30 分頃到着。

ここで、メンバーの車がパンクしていることが判明。すぐに JAF を呼ばれましたが、山中ということもあり時間を要するため、メンバー一人を残して他のメンバーは先に宿泊地である鏡ヶ成キャンプ場まで移動することにしました。結局、21 時頃にその方も合流されました。

その方は JAF 会員とのことで修理代は無料とのこと。私も、もしものことに備えて JAF 入会を決めました。

鏡ヶ成キャンプ場はテント場も広く、炊事場やトイレが近くて清潔なうえ、車も目の前に駐車できて快適でした。近いうちにまたキャンプに来て、甲ヶ山に再チャレンジしたいと思います。

【6 月 26 日(日) 烏ヶ山】

朝、鳥のさえずりで気持ちよく目を覚まし、食事・片付けを済ませて、烏ヶ山を目指して 7 時に登山を開始しました。

計画では、この日は歩荷登山(テント装備歩荷)の予定でしたが、スタッフの判断で軽荷登山に変更されました。前日の私の疲労困憊ぶりを見て判断されたのだろうな一。

実際に歩いてみると、前日程の疲労は感じませんでした。

たが、先頭のペースに着いて行くのがやっとな感じでした。

8 時 50 分頃、烏ヶ山手前でヘルメット、ハーネスを装着し頂上を目指しました。

この辺りは、晴れていると見晴らしが良いそうですが、この日の山頂付近は、あいにくガスが出ていて何も見えませんでした。天気の良い日にまた登りたいと思います。

烏ヶ山山頂で記念写真を撮り、新小屋峠経由で下山しました。

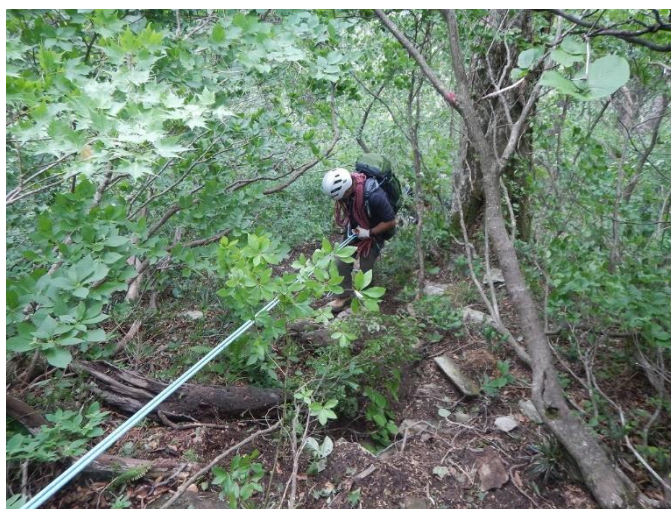
最後に、登山道出口の手前で、森本 CL から、前日、甲ヶ山からの下山時に行った懸垂下降訓練のしんがりの動作やコツを他の受講生にもレクチャーしていただき、私もおさらいが出来ました。

また、ロープの束ね方は、今は、肩掛けで振り分ける「バタフライコイル」が主流とのことですが、参考として「マウンテニアズコイル」を使った傷病者搬送方法も教えていただきました。

最後に、今回も有意義な教室を企画していただいたスタッフの皆様に感謝申し上げます。

そして、受講生の皆様お疲れさまでした。

(写真提供 森本)



5. ありんこチーム活動報告

(顧問・個人会員 岡谷 良信)

【感想文】

『ありんこチーム 6 月の山行』

(個人会員 池田 敦)

6 月 1 回目の日帰り登山、ありんこチームは 4 日(土)に、歓喜山、平家山、烏帽子形山です。どれも平家物語にでてきそうな言葉ばかりの山々へ行ってまいりました。計画された方は、今放映中の大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」を意識されたのでしょうか。とは言え、名前は立派なのですが、参加された方のほとんどが初めての山です。一番高い山でも 380 メートルほどで、いわゆる里山だろうと思っていました。

朝 9 時に忠海駅を出発し、海辺を歩くこと 10 分ほどで登山口に到着です。今回の山行は、総勢 12 名で登山体験の希望者も 2 名参加されていました。皆なごやかに歩いていきました。

登山道は、大変よく整備されていて歩きやすく、この日は雲一つない快晴で、暑くなると思い半そで登ったのですが、林の中は、とっても気持ちがよく、風が通ると、すがすがしい気分ですぐに登ることができました。1 時間もかからずに歓喜山の山頂。途中の開けたところでは、眼下に瀬戸内の静かな海を見渡すことができ、それまでの疲れをいっぺんで吹き飛ばしてくれました。

ありんこチームへの参加は、私は 2 回目で前回は掛頭山プラス山菜パーティへの参加です。今回は、8 キロぐらい歩く計画なので前回より軽く 10 キロぐらいの歩荷で参加しました。皆さんの歩行に遅れてしまわないか心配でしたが、さほど息も上がることなく、歩行を確かめながら進むことができました。

登り始めは、低山と思っていましたが、岩もあり、ロープが下がっている急登もありで、何よりも瀬戸内の海、さらには四国まで見渡せる景色も、感動もの、登山道はよく整備されていて、気持ちいい山歩きができました。

私は、岳連の教室に 3 年間在籍して、その間の登

山では昼休憩をとることがなかったので、ありんこで、皆さんが腰を下ろして、わきあいあいと弁当を食べている姿は新鮮でした。一応サンドイッチを持ってきましたでしたが、すぐ食べてしまい、腰を下ろすということもできず、腰下ろしは、その後の登山がつらくならないか心配で、あたりを散歩などしながら時間を潰すことになり、これからはカップヌードルなどを持ってきてみたいと考えたりしています。

ありんこチームの皆さん、今後ともよろしく願います。

(写真提供 岡谷)





編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい

6. 岳連短信

1. 寄贈御礼

6/20 三原山の会『筆影』No. 508 (7月号)

6/21 福山山岳会『会報』7月号

広島山稜会『峠通信』第757号(7月)

広島やまびこ会『やまびこ』791

広島山岳会『山嶺』第883号(6月)

長野県山岳協会ニュースやまなみ 245号

7/5・7/15『中信高校山岳部かわらばん』709・710

2. 7～8月の行事予定

8/5～9 第65回全国高校登山大会(香川県)

8/19～21 国体中国ブロック予選(広島 CERO)